

Leaders TOPICS

小さな一歩を大切に

公害防止管理者 エネルギー部会 岡田佳男



春はあけぼの、夏は夜、秋は夕暮れ、冬はつとめて、ご存じ大河ドラマ「光る君」でもおなじみの清少納言の代表作「枕草子」で日本の四季を愛でた一説である。近頃頻繁に聞く猛暑や水害被害に、美しい日本の四季がいつまで続くのか一抹の不安を感じる。

■地球温暖化に伴う気候難民

国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は2年前、気候変動による影響や対応策を分析した報告書を公表した。産業革命前に比べて気温が2度上昇すれば今世紀末までに干ばつなどで慢性的な水不足に陥る人口が8億~30億人に至ると予測した。また、地球温暖化に伴う異常気象で住まいを迫られる「気候難民」の規模は、2050年までに2億人を超すと試算もある【図-1】。

世界の平均気温は100年間で0.76℃上昇した。日本は1.35℃の上昇と2倍になっている。「猛暑日」という言葉は、気象庁が2007年に制定した用語であり、東京では2007年に7日記録されたのが、2023年には22日と3倍に増加した。特に京都では43日と夏季の半分が猛暑日になった。

■日本のエネルギー消費量の増加

エネルギー白書を見ると、日本のエネルギー消費量は、1965年度から60年間で3倍に増加し、2021年度は18.67EJ(1エクサジュールは10の18乗ジュール)消費した【図-2】。このエネルギー消費の約半分は電気エネルギーである。2021年の電力消費量は9,237億kWh、火力発電が73%、原子力が7%、水力と新エネで20%という割合である。また、日本全国の家庭では約3千億kWhの電力を使用している。



図-1 2050年までに気候難民になる恐れがある人の数 (出典:2022年3月1日付、同4月24日付日経新聞)

新エネと呼ばれる風力発電や太陽光発電はもとより、水素やアンモニア利用技術など画期的な新技術がこれからも発明されていくことであろう。人類は近い将来、温暖化など地球の気候変動も克服していくと期待している。とはいえ、この温暖化対策は人類全員、日本人全員の課題でもある。我々にもできることがある。日頃使っている電気の節約である。

■省エネで火力発電所を削減

日本全国の平均的な1世帯の電力消費量は、年間4千kWh、電気代に換算すると11万円と言われている。エアコンの室温設定を1℃調整する。照明をLEDに交換する。冷蔵庫は無駄な開閉を避け適正な温度に設定する。その他、テレビの見る時間を減らすことや、洗濯乾燥機の乾燥時間を減らすこと、温水洗浄便座を使わないときは蓋を閉めておくなど、不便にならない賢い省エネをおこなう。もし、5%節約できると、日本全国で年間150億kWh節約できることになる。温暖化ガスの排出量が多い火力発電所を2%停止することができる。2千基以上あると言われる火力発電設備を30基ほど停止することができる。

■小さな一歩への取り組み

小さな取り組みを一步踏み出すことで、大きな成果が生まれる。時にはスライド説明で、また楽しい実験や工作を通して、子どもたちに小さな一歩を踏み出す手伝いをするこも、私たち環境学習リーダー会の大きな仕事と思う。この小さな一歩を、大切に、楽しく、取り組んでいきたい。

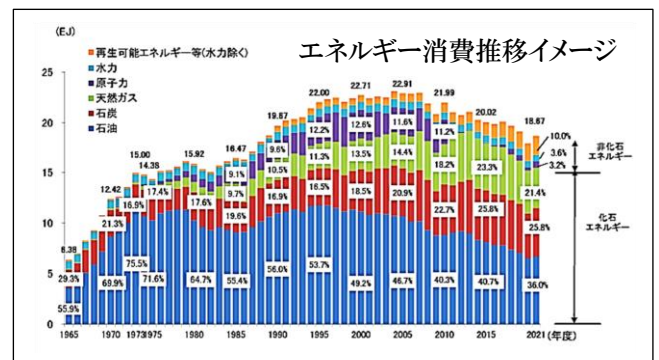


図-2 一次エネルギー国内供給の推移 (出典:エネルギー白書2023、2024年6月26日更新、P-77)